

# 小学校家庭科の布を用いた製作題材における技術の検討 — 検定教科書の通時的分析から —

瀬川 朗\*・長 拓実\*\*

(2022 年 11 月 16 日 受理)

An Examination of Techniques Used for Sewing Productions in Home Economics  
in Elementary School: Through a Diachronic Analysis of Textbooks

SEGAWA Akira and CHO Takumi

## 要約

小学校家庭科において「布を用いた物の製作」の学習は戦後一貫して存続してきた。その背景には、技術の習得のほかに多様な価値が新たに見出され、目的が付け加えられてきたことがあるといえる。このような目的の変化に伴い検定教科書に掲載される製作題材例もまた多様化してきたことが指摘されている。しかし、用いられる技術という観点から製作題材の作り方やその記載方法の変化に言及した研究はわずかである。本稿では、小学校家庭科の検定教科書を通時的に分析することで、(1) 同一の製作実習題材であっても、その位置づけによって適用される技術的なアプローチが変更される場合があること、(2) 製作過程において縫製技術を用いるさいに児童に選択の余地を与える傾向がとくに近年の教科書にみられることを明らかにした。これらの結果を踏まえ、製作題材および用いる技術を児童が自ら選択する、個別最適な製作学習の可能性について展望した。

**キーワード：**家庭科，衣生活，被服製作，布を用いた製作，裁縫技術，裁縫技能，教科書分析

## 1. 背景と目的

既製衣料が普及し、家庭における衣服の製作が一般的ではなくなった現在においてなお「布を用いた製作」は日本における小学校家庭科の学習内容の重要な一部を占めている。国民の衣生活に大

\* 鹿児島大学 法文教育学域 教育学系 講師

\*\* 愛知学泉大学 家政学部 こどもの生活学科 講師

きな変化がもたらされたにもかかわらず、小学校家庭科において「布を用いた物の製作」の学習が戦後一貫して存続してきた理由は多岐にわたると考えられるが、ひとつには、製作学習を通じて伝統・文化を再認識させることができること、消費者教育や環境教育と関連性に富むこと、あるいは作品が完成するまでの過程で児童が自己肯定感を醸成することができることといった新たな価値が次々に見出され、学習の目的として付け加えられてきたことがあるといえる。時代や社会の変転に伴い新規に加えられてきた価値があるといっても、具体的な個々の作品の製作過程でどのような技術を用いるのかが、布を用いた製作実習のカリキュラムをデザインするうえで第一に考慮すべき事項であることは言を俟たない。それでは、検定教科書に掲載される製作実習題材（以下、「布を用いた製作」の実習題材を単に「製作実習題材」と記す）はどのように変化してきたのであろうか。また、長期的に教科書に掲載されてきた題材であっても製作過程で用いる技術やその説明・表記方法には何らかの変化があるのだろうか。本稿は戦後の小学校家庭科の検定教科書を分析することにより、これらの問いに答えることを試みるものである。

先行研究における小学校家庭科の衣生活分野に関する教科書分析の結果は、次のように整理することができる。第一に、初めての検定教科書が使用開始された1961年以降の全期間、あるいはこれに準ずる期間に発行された全教科書を対象とした研究では、製作実習題材の掲載数や種類に変化があることが指摘されてきた。例えば、池崎（2000）は1990年代までの全体的な傾向として題材が整理・統合されてきたこと、1971～1979年度は「小物」の製作に関する題材が多数例示されていること、そして1970年度までの使用教科書に掲載されていた「前かけ」が1980年度使用教科書から「エプロン」となったことを指摘し、これらを「家庭生活の変化をとらえた実習題材の設定」の工夫であると総括している。杉村ら（2005）は、1968～2004年度使用教科書の製作実習題材を集計し、「ふくろ」が最多であること、「ティッシュペーパー入れ」などの「小物」は1980年度以降に多数取り上げられるようになったこと、1991年度まで掲載題材数が減少傾向にあったのに対し1992年度使用開始版では急増し最多となったことなどを示している。高木（2013）は開隆堂出版の検定教科書を総覧し、製作実習題材について調理実習題材と比較しながら考察を導いている。製作実習題材に関しては調理実習題材とは異なり、時代によらず扱われてきた「定番」題材は見当たらないが、「壁掛け（ウォールポケット）」、「エプロン」、「手さげ袋」や「ナップザック」、「ティッシュボックスケース」などが頻出であるとし、加えて2000年度までの使用教科書と2001年度以降のそれとを比較し、完成を目的とした構成から生活との関連や製作過程を重視する構成へと変化したと結論づけている。第二に、ある時期の一組の新旧教科書を比較し、その異同を検討した研究では、提示方法の工夫などにより技術を確実に習得させようという傾向が強められてきたことが指摘されている。例えば、山本ら（2005）は、2002～2004年度使用教科書と2005年度以降使用教科書のそれぞれの衣生活に関連する用具の記載状況を発行者別、領域別、表示方法別に比較し、とくに表示方法について本文での記載が減るかわりに写真での表示が増加し、視覚的に理解させようとする変化があったことを指摘している。増渕（2012）は、2002～2004年度使用教科書と2008年の学習指導要領改訂

後の2011～2014年度使用教科書（主に開隆堂出版のもの）を対象資料としている。両者を比較することで、調理や裁縫において「教材の自由度を高めるよりも、限定することで習得の徹底をはかる」ことがより重視されるようになりつつあり、「視覚的にも手順を強調」する「やり方主義」に陥り、児童に「技術の反復練習」ばかりを強いるものになったと批判し、「教える中身や教え方が均質化し、目に見える成果を求める」ことにつながりかねないと警鐘を鳴らしている。第三の類型として、異なる学校種の教科書を横断的な視点から分析することを目的とした研究が挙げられる。田中ら（2014）は2013年度に使用された小・中・高の教科書（発行者は東京書籍）をもとに、「小物」が中心である小・中学校に対して高等学校では衣服の製作が多いことはある種の断絶であり「（高等学校の）生徒の抵抗感を招くことも予想される」と懸念を表明している。また、岩田ら（1999）は衣生活の管理に関する内容を中心に戦後の小・中・高の教科書（小・中学校は東京書籍および開隆堂出版、高等学校は主に実教出版〔著作者：高校家庭科学学習指導研究会ら〕が発行する教科書）を分析し、衣生活領域は製作への偏重が課題であり、そのため「単なる技能の習得に陥らないよう、製作の意味を問い直す」ためにも、衣生活管理の学習が必要であると提言する。

上述のように、先行研究における小学校家庭科の衣生活分野における教科書分析からは題材の内容や種類、掲載数には長期的な変化が認められることをうかがい知ることができるが、次のような限界があるといえる。すなわち、第一の類型は題材数を単純に集計した結果は示されているが、それに対する考察は概括的な印象に留まっており、そのうえ対象教科書が合理的な理由なく限定されている場合もあるなど網羅性にも不十分な点がみられる。第二の類型からは今後の家庭科教育の発展に有用な視座を得ることができるが、対象時期を拡大しその主張の妥当性を再検討する必要があるといえる。第三の類型は中学校・高等学校の学習内容が分析の主眼であり、したがって小学校家庭科に関する知見は副次的産物にすぎない。布を用いた製作に触れる最初の学校段階にあたる小学校は中学校・高等学校とは異なる特性を有しており、小学校に焦点化した研究が求められる。以上の問題意識から本稿では小学校教科書を通時的に分析し、製作において用いられる技術に焦点をあて、その変遷を振り返るとともに今後の衣生活学習を展望することとした。

## 2. 方法

研究方法は量的な教科書分析である。まず、1961年度以降継続的に発行されている2社の検定教科書を収集し、対象とする製作実習題材を特定した。次に、題材を掲載期間および時期に応じて類型化した。そのうえで、各類型の代表的な題材に用いられる技術の種類を高木（1990）による技術の分析枠組みに基づいて列挙し、得られた結果をもとに考察を導いた。

### （1）対象資料

小学校家庭科において文部（科学）大臣の検定を経た教科用図書（以下、検定教科書）が初めて使用されたのは1958年に告示された学習指導要領のもとでの1961年度のことである。本研究では

表 1 : 分析対象とした東京書籍株式会社発行の小学校家庭科教科書一覧 (筆者作成)

学習指導要領	使用年度	記号・番号	書名	国研 ID 注 a)	目録レコード番号 注 b)
I 期 : 1958 年告示	1961~1964	家庭 5005	新しい家庭科 5	EB10003552	119600648
		家庭 6005	新しい家庭科 6	EB10003553	119600649
	1965~1967	家庭 5016	新編新しい家庭科 5 年	EB10003554	119640496
		家庭 6015	新編新しい家庭科 6 年	EB10003555	119640497
	1968~1969	家庭 5021	新訂新しい家庭科 5	EB10003576	119670430
		家庭 6020	新訂新しい家庭科 6	EB10003577	119670431
	1970	家庭 5021	新訂新しい家庭科 5	EB10003578	119670430
		家庭 6020	新訂新しい家庭科 6	EB10003579	119670431
II 期 : 1968 年告示	1971~1973	家庭 5010	新しい家庭 5	EB10003556	119700356
		家庭 6010	新しい家庭 6	EB10003557	119700357
	1974~1976	家庭 5030	新訂新しい家庭 5	EB10003558	119730356
		家庭 6030	新訂新しい家庭 6	EB10003559	119730357
	1977~1979	家庭 5060	新編新しい家庭 5	EB10003560	119760343
		家庭 6060	新編新しい家庭 6	EB10003561	119760344
III 期 : 1977 年告示	1980~1982	家庭 501	新しい家庭 5	EB10003562	119790333
		家庭 601	新しい家庭 6	EB10003563	119790334
	1983~1985	家庭 503	改訂新しい家庭 5	EB10003564	119820333
		家庭 603	改訂新しい家庭 6	EB10003565	119820334
	1986~1988	家庭 505	新編新しい家庭 5	EB10003566	119850336
		家庭 605	新編新しい家庭 6	EB10003567	119850337
	1989~1991	家庭 507	新訂新しい家庭 5	EB10003568	119880339
		家庭 607	新訂新しい家庭 6	EB10003569	119880340
IV 期 : 1989 年告示	1992~1995	家庭 501	新しい家庭 5	EB10003570	119910362
		家庭 601	新しい家庭 6	EB10003571	119910363
	1996~1999	家庭 503	新編新しい家庭 5	EB10003572	119950315
		家庭 603	新編新しい家庭 6	EB10003573	119950316
	2000~2001	家庭 505	新訂新しい家庭 5	EB10003574	119990313
		家庭 605	新訂新しい家庭 6	EB10003575	119990314
V 期 : 1998 年告示	2002~2004	家庭 501	新しい家庭 5・6	EB10010061	120010305
	2005~2010	家庭 503	新編 新しい家庭 5・6	EB10010358	120040284
VI 期 : 2008 年告示	2011~2014	家庭 501	新しい家庭 5・6	EB16209268	120100269
	2015~2019	家庭 531	新編 新しい家庭 5・6	EB16336138	120140242
VII 期 : 2017 年告示	2020~2022	家庭 501	新しい家庭 5・6	EB20080519	120190213

注 a) 国立教育政策研究所教育図書館が付与したメタデータ ID をさす。

注 b) 公益財団法人教科書研究センター附属教科書図書館教科書目録情報データベースの目録レコード番号をさす。

表2：分析対象とした開隆堂出版株式会社発行の小学校家庭科教科書一覧（筆者作成）

学習指導要領	使用年度	記号・番号	書名	国研 ID	目録レコード番号
I 期：1958 年告示	1961～1964	家庭 5006	小学家庭 5	EB10003519	119600654
		家庭 6006	小学家庭 6	EB10003520	119600655
	1962～1964	家庭 5011	小学生の家庭 5	EB10003521	119610094
		家庭 6010	小学生の家庭 6	EB10003522	119610095
	1965～1967	家庭 5015	小学校家庭科 5	—	119640500
		家庭 6014	小学校家庭科 6	—	119640501
	1968～1969	家庭 5019	小学校家庭科 5	EB10003523	119670432
		家庭 6018	小学校家庭科 6	EB10003524	119670433
	1970	家庭 5019	小学校家庭科 5	EB10003525	119670432
		家庭 6018	小学校家庭科 6	EB10003526	119670433
II 期：1968 年告示	1971～1973	家庭 5020	小学校家庭科 5	EB10003527	119700358
		家庭 6020	小学校家庭科 6	—	119700359
	1974～1976	家庭 5040	小学校家庭科 5	EB10003528	119730358
		家庭 6040	小学校家庭科 6	EB10003529	119730359
	1977～1979	家庭 5050	小学校家庭科 5	EB10003530	119760345
		家庭 6050	小学校家庭科 6	EB10003531	119760346
III 期：1977 年告示	1980～1982	家庭 502	小学校家庭科 5	EB10003532	119790335
		家庭 602	小学校家庭科 6	EB10003533	119790336
	1983～1985	家庭 504	小学校家庭科 5	EB10003534	119820335
		家庭 604	小学校家庭科 6	EB10003535	119820336
	1986～1988	家庭 506	小学校家庭科 5	EB10003536	119850338
		家庭 606	小学校家庭科 6	EB10003537	119850339
	1989～1991	家庭 508	小学校家庭科 5	EB10003538	119880341
		家庭 608	小学校家庭科 6	EB10003539	119880342
IV 期：1989 年告示	1992～1995	家庭 502	小学校わたしたちの家庭科 5	EB10003540	119910364
		家庭 602	小学校わたしたちの家庭科 6	EB10003541	119910365
	1996～1999	家庭 504	小学校わたしたちの家庭科 5	EB10003542	119950317
		家庭 604	小学校わたしたちの家庭科 6	EB10003543	119950318
	2000～2001	家庭 506	小学校わたしたちの家庭科 5	EB10003544	119990315
		家庭 606	小学校わたしたちの家庭科 6	EB10003545	119990316
V 期：1998 年告示	2002～2004	家庭 502	小学校 わたしたちの家庭科 5・6 年	EB10010062	120010306
	2005～2010	家庭 504	小学校 わたしたちの家庭科 5・6	EB10010654	120040285
VI 期：2008 年告示	2011～2014	家庭 502	小学校 わたしたちの家庭科 5・6	EB16209269	120100270
	2015～2019	家庭 532	小学校 わたしたちの家庭科 5・6	EB16336139	120140243
VII 期：2017 年告示	2020～2022	家庭 502	小学校 わたしたちの家庭科 5・6	EB20080520	120190214



1961 年以来 2022 年まで継続して家庭科教科書を発行している東京書籍株式会社（以下「東京書籍」または「東書」とする）および開隆堂出版株式会社（以下「開隆堂」と略記する）の 2 社の全教科書のうち、複式学級用を除いた 68 冊を対象資料とした（表 1・2）。共通の学習指導要領のもとで使用され、かつ記号・番号が同一の教科書は区別せずに取り扱うものとした。以下では、各教科書を使用開始年と発行者名で記す。例えば 1961 年度から使用開始された東京書籍の発行する教科書を「1961 年東書版」と表記する。なお、本稿では 1958 年告示の学習指導要領に対応した教科書が発行された期間を I 期、1968 年告示の学習指導要領に対応した教科書が発行された期間を II 期とし、以下同様に改訂のたびに期を改め、2017 年告示の学習指導要領に対応する教科書が用いられている 2020 年から 2022 年現在までを VII 期とする。

## （2）分析の手続き

対象教科書の分析は、語やテーマ、項目の出現頻度・分量に着目する量的方法（Pingel, 2010）によりおこなった。ここでは分析対象とする製作実習題材の定義と検索範囲、分析の視角、そして信頼性を担保するための手続きについて述べる。

### ア) 分析対象と範囲

本研究における「製作実習題材」は（a）児童が裁縫技術を用いて製作することが想定されている作品であり、（b）材料のひとつに布が含まれており、かつ（c）作り方の全部もしくは一部が文章やイラストで説明されているものと定義する。作り方の説明の分量の多少は問わないが、写真とその表題のみが掲載されているものは条件（c）を満たさず、製作実習題材には含まれない。また「ししゅう」「はんぞめ」「かきぞめ」など具体的にどのような作品を完成させるかが定まらないものは教科書の項目としてたとえ製作実習題材と同列に扱われていても、条件（a）を満たさないために製作実習題材とは扱わないものとする。範囲は対象教科書の全ページ（見返しや扉なども含む）である。対象とする製作実習題材を定義に従って特定したうえで集計し、出現時期・頻度による類型化もおこなった。

### イ) 分析の視角

製作実習題材を分析するための視角として、主に「技術」を取り上げる。「技術」を分類するための枠組みとして、高木（1990）による被服構成技術の分類を採用した。高木による分類は、一定の規則のもとに被服構成技術を 6 種類の技術に類別・体系化したもので、この分類によりかつての性別履修期の中学校技術・家庭科における被服製作題材の難易度が、小学校でのそれに比して飛躍的に高まっていることが実証的に示された（高木, 1990; 2001; 2004）。この分類は、衣生活分野における製作で用いる技術を要素に分解して漏れなく重複なく整理しており、技術を分類して示した類似の研究（例えば川合ら（2008）によるものなどがある）のなかでもとくに基準が明確であるため、

本研究の目的に適うものと考えられる。**表3**は高木により分類された技術のうち、本研究に関係する一部の技術を抜粋して示したものである<sup>注1)</sup>。そのうえで、それぞれの製作実習題材でどのような技術が用いられているのかという点を踏まえ、教科書において技術がどのように表現されているのか、すなわち明示的か暗示的か、必須か選択して用いるものか、などを帰納的にカテゴリ化し、時代による変遷を明らかにすることを試みた。

表3：高木（1990）による被服製作技術の分類（一部抜粋）

分類	副分類	技術群	技術
非縫製技術	I	採寸	採寸
		型紙	製図
	II	アイロンかけ	平アイロン
			割り押さえ
			仕上げ
		裁断	はさみ
		印つけ	へら
			ルレット
			チャコペーパー
			えんぴつ
		待針を打つ	待針
		布扱い	二つ折り（中表・外表）
			三つ折り
			きせ
		紐通し	紐
			ゴム
基礎縫製技術	I	手縫い	なみ縫い
			本返し縫い
			半返し縫い
			かがり縫い
			まつり縫い
		ミシン縫い	本縫い
		留め	玉結び
			玉留め
	II	しつけ	しつけ
		接ぎ	割り接ぎ
応用縫製技術	I	ブリーツ	片ひだ
		布寄せ	ギャザー
		留め具	スナップ
			ボタン

### ウ) 分析の手続き

研究者間の信頼性は、筆頭著者と第二著者がすべての資料を確認して協働でマニュアルを作成して独立に分類作業をおこない、協議によって齟齬を解消することで検証した。研究者内の一貫性については、一定の時間経過ののちに再度分類をして結果に変化がないことを確認した。

## 3. 結果と考察

本節では、対象教科書に掲載された製作実習題材の全体的な変遷を概観したのち、特徴的な題材である「台ふき」「手さげぶくろ」「ティッシュペーパー入れ」の3種に着目し、位置づけや用いられる技術の教科書における表記のされ方がどのように変容したのかを述べる。

### (1) 掲載題材の変遷

表4は、東京書籍および開隆堂出版の2社より発行された小学校家庭科の検定教科書に掲載されている作品のうち、本研究における対象である、作り方が文章または図で説明されている題材を教科書ごとに掲載ページ順に示したものである（題材名は原則として原文ママ、ただし名称が記されていないものは前後に発行された教科書などから筆者が推定し、括弧書きで記した）。

検定教科書の改訂の機会は全期間を通じて概ね3～4年ごとに設けられており、1961年以降、版が改められた回数は、東京書籍が19回、開隆堂出版は18回であった。1998年告示の学習指導要領において第5学年と第6学年の区別が撤廃され現在に至るため、2000年版までは2社ともに第5学年用と第6学年用の2冊制であり、したがって題材も学年別に掲載されている。それに対し、2002年以降は1冊の教科書が第5・6学年で共通に使用され、掲載題材も学年の指定はされていない。表4からは、全体として2社ともに掲載題材数が漸増傾向にあることがみてとれ、これは先行研究も指摘するところであるが、2017年告示の学習指導要領のもとで発行された2020年版に関しては直前の2015年版に比して減少が確認できる。

高木（2013）による先行研究を参考に、発行者別・種類別に掲載題材（数）を整理したものが表5・6である。表中の「㊦」は第5学年用、「㊧」は第6学年用、そして「○」は2002年版以降の学年共通教科書に記載された題材であることを示しており、例えば1961年東書版では第5学年用の教科書に掲載された「そろばんぶくろ」は「袋もの」の題材のひとつとして計上されている。題材の分類にあたっては、名称の表現が一部異なるが形状が等しい作品は区別せず、同一の題材として分類した。例として「手さげぶくろ」「手さげ」「手さげ型」は同一視し、同様に「ちり紙入れ」「ティッシュペーパー入れ」「ポケットティッシュカバー」も区別せずに扱った。「マイバッグ」と「音楽用マイバッグ」などの、完成作品の形状には影響しない使用者・使用用途などを表す修飾語句の有無による差も無視し、同一の題材とみなすこととした。掲載された題材の大部分は「袋もの」「エプロン」「ふきん」「かべかけ」「カバー類」「小物類」のいずれかに分類されるが、そのいずれにも該当しない題材（Ⅰ期の「ギャザースカート」「かんたんな上着」とⅥ期の「ひざかけ」）は「その



表4：小学校家庭科教科書に掲載された製作実習題材一覧（筆者作成）

期・使用開始年度	学年	発行者	
		東京書籍	開隆堂出版
I	1961	5 台ふき/ぞうきん/そろばんぶくろ/整理ぶくろ	台ふき/ふくろ/整理ぶくろ
		6 まくらカバー/まえかけ/ギャザースカート/かべかけ/花びんしき/のれん	まくらカバー/うでカバー/前かけ（ミシンのとき）/前かけ（手ぬいとき）/かんたんな上着/ギャザースカート
	1962	5 （改訂なし）	台ふき/ぞうきん/そろばん入れ/整理ぶくろ
		6 （改訂なし）	まくらカバー/うでカバー/前かけ/ギャザースカート/のれん
	1965	5 台ふき/さいほうばこのふくろ/整理ぶくろ	台ふき/さいほうばこ入れ/手さげぶくろ/整理ぶくろ
		6 つつ形のまくらカバー/まえかけ/かべかけ/テーブルセンター	まくらカバー/洋服カバー/前かけ/のれん/かべかけ
	1968	5 台ふき/さいほうばこのふくろ/整理ぶくろ	台ふき/さいほうばこ入れ/手さげぶくろ/整理ぶくろ
		6 つつ形のまくらカバー/まえかけ/かべかけ	まくらカバー/洋服カバー/前かけ/テーブルセンター/かべかけ
	1971	5 さいほうばこのふくろ	さいほうばこ入れ/手さげぶくろ/台ふき/花びんしき/整理ぶくろ
		6 かべかけ/テーブルセンター/つつ形のまくらカバー/洋服カバー	テーブルセンター/かべかけ/のれん/まくらカバー（つつ型）/洋服カバー/いすカバー
	1974	5 整理ぶくろ/さいほうばこのふくろ	さいほうばこ入れ/手さげぶくろ/台ふき/花びんしき/整理ぶくろ
		6 かべかけ/テーブルセンター/つつ形のまくらカバー/ブックカバー/洋服カバー	テーブルセンター/かべかけ/のれん/まくらカバー/洋服カバー/いすカバー
II	1977	5 体育着のふくろ/さいほうばこのふくろ	さいほうばこ入れ/手さげぶくろ/花びんしき/整理ぶくろ
		6 つつ形のまくらカバー/エプロン	テーブルセンター/かべかけ/のれん/まくらカバー/洋服カバー
	1980	5 ちり紙入れ/小物入れ/手さげぶくろ/さいほうばこのふくろ/頭おおい/ぞうきん/くつみがき用ミトン	はさみサック/ティッシュペーパー入れ/手さげぶくろ/口をひもでしめるふくろ/台ふき/なべつかみ/くつみがきミトン
		6 エプロン/まくらカバー/洋服カバー/めがねケース/ブックカバー/名前入りナプキン/かべポケット	エプロン/まくらカバー/小さなしき物/ポケットつきのかべかけ
	1983	5 ちり紙入れ/小物入れ/手さげぶくろ/さいほうばこのふくろ/頭おおい/ぞうきん/くつみがき用ミトン	はさみサック/ティッシュペーパー入れ/手さげぶくろ/口をひもでしめるふくろ/台ふき/なべつかみ/くつみがきミトン
		6 エプロン/まくらカバー/洋服カバー/めがねケース/ブックカバー/名前入りナプキン/かべポケット	エプロン/まくらカバー/小さなしき物/ポケットつきのかべかけ
	1986	5 ティッシュペーパー入れ/小ぜに入れ/ワッペン/ひもでしめるふくろ/手さげぶくろ/ぬいとりをしたふきん/くつみがき用ミトン/小物入れ	ティッシュペーパー入れ/ペンケース/口をひもでしめるふくろ/手さげぶくろ/頭おおい/ベルトポケット/なべつかみ
		6 エプロン/まくらカバー/めがねケース/かべポケット/ブックカバー/クッション	エプロン/まくらカバー/メモ入れ/小座ぶとんカバー
	1989	5 ティッシュペーパー入れ/小ぜに入れ/ワッペン/ひもでしめるふくろ/手さげぶくろ/ぬいとりをしたふきん/くつみがき用ミトン/小物入れ	ティッシュペーパー入れ/小ぜに入れ/口をひもでしめるふくろ/手さげぶくろ/頭おおい/なべつかみ
		6 エプロン/まくらカバー/みんなで使うファミリーポケット	エプロン/まくらカバー/メモ入れ/小座ぶとんカバー
IV	1992	5 ティッシュペーパー入れ/ワッペン/カード入れ/2本のひもでしめるふくろ/手さげぶくろ	コースター/マスコット/小ぜに入れ/ナップザック型/手さげ型
		6 エプロン/まくらカバー/つつ形のまくらカバー/キャンディー型クッションカバー/みんなで使うファミリーポケット/おべんとうつつみ	エプロン/まくらカバー/タオルかけ/ティッシュボックスカバー

期・使用開始年度	学年	発行者	
		東京書籍	開隆堂出版
Ⅳ	1996	5 小ぜに入れ/ワッペン/ティッシュペーパー入れ/ナップザック型/手さげ型/口あきのないふくろ/バスマット/なべしき	ティッシュペーパー入れ/小ぜに入れ/さいころ/ナップザック型/手さげ型/外側にひも通しがついているふくろ
		6 エプロン/ふくろ型まくらカバー/つつ型まくらカバー/キャンディー型クッションカバー/ファミリーポケット/お弁当つつみ	エプロン (1枚だちの例)/エプロン (むねあてつきの例)/クッションカバー/うでカバー/小物入れ/ティッシュボックスカバー
	2000	5 マスコット/小ぜに入れ/ティッシュペーパー入れ/ワッペン/ナップザック/手さげ/なべしき/コースター/バスマット	マスコット/ティッシュペーパー入れ/花ふきん/ナップザック型/手さげ型
		6 エプロン/ふくろ型まくらカバー/つつ型まくらカバー/キャンディー型クッションカバー	エプロン/クッションカバー/むねあてつきエプロン/ティッシュボックスカバー
Ⅴ	2002	5・6 スプーンホルダー/はかなくなったジーンズを利用した手紙入れ/ペンケース/ティッシュペーパー入れ/アイデアお手玉/花びら型のふくろ/ナップザック/手さげ/クッションカバー	(ネームプレート)/小ぜに入れ/ティッシュペーパー入れ/(きゅうり・すいか・さやえんどうのマスコット)/ランチョンマット/ウォールポケット/花ふきん/ナップザック/ショルダーバッグ/底面のあるふくろ/クッション/べんとう包み/ティッシュボックスカバー/なべつかみ/エプロン
		2005 5・6 ワッペン/ポットカバー/オリジナルマグネット/マイネームプレート/ランチョンマット/エプロン/ナップザック/クッションカバー/ミニトートバッグ/ティッシュケース/ペットボトルカバー/ミトン/ネックウォーマー/ぼうし	ネームプレート/小物入れ/ティッシュペーパー入れ/食事のときに使うランチョンマット/みんなで使えるティッシュボックスカバー/ランチョンマット/クッション/バンダナで作ったティッシュボックスカバー/エプロン/マルチバッグ/足ふきマット/ナップザック/手さげぶくろ/ウォールポケット/ねこ型ティッシュボックスカバー/マイ・エプロン/ファスナーつき小物入れ/ふたつき小物入れ
	2011 5・6	つながるボックス/きん着/小物入れ/メッセージかべかけ/眼鏡ケース/ランチョンマット/クッションカバー/ウォールポケット/カフェエプロン/ティッシュボックスカバー/お弁当包み/エプロン/お弁当バッグ/かべかざり/ウォールポケット(布)/ウォールポケット(フェルト)/コースター/ポーチ/シューズ入れ/リュックサック/ティッシュボックスカバー(フェルト)/ブレッドカバー	ネームプレート/フェルトの小物入れ/数字のマスコット/マスコット/ペンケース/小物入れ/ハンカチでつくるふくろ/針さし/キャンディー形クッション/ティッシュペーパー入れ/ランチョンマット/クッション/カフェエプロン/ブックカバー/身じたくずきん/本を持ち運ぶバッグ/マイバッグ/底面のあるふくろ/ななめナップザック/エプロン/まくらカバー/ふろしきでつくったふくろ/フォトフレーム
Ⅵ	2015 5・6	小物入れ/きんちゃくぶくろ/なべしき/ウォールポケット/ランチョンマット/エプロン/あずまぶくろ/サッカーの練習用ナップザック/トートバッグ/(ポケットつき) トートバッグ/(まちつき) トートバッグ/きんちゃく/ナップザック型/クッションカバー/(ボタン付き)クッションカバー/カフェエプロン/マスク/かいり入れ	ネームプレート/フェルトでつくるカード入れ/数字のマスコット/はさみケース/ペンケース/つながるアイスクリームマスコット/ハンカチでつくるふくろ/針さし/ペットボトルキャップの針さし/布でつくるティッシュペーパー入れ/弁当つつみ/ランチョンマット/クッション/マルチカバー/まくらカバー/花ふきん/ブックカバー/ナップザック/マイバッグ/ナップザック/エプロン/カフェエプロン/(頭おおい)/ぞうきん/ひざかけ
	Ⅶ 2020 5・6	マイ・ミニバッグ/バンダナを使ったきんちゃくぶくろ/タオルを使ったぞうきん/エプロン/ランチョンマット/ウォールポケット/まくらカバー/学校用のトートバッグ/トートバッグ/(ポケット付き) トートバッグ/(まちつき) トートバッグ/クッションカバー/(ボタン付き)クッションカバー/きんちゃく/ナップザック型	ぬい取りのネームプレート/フェルトで作るカード入れ/ポケットティッシュカバー/ペットボトルキャップの針さし/弁当包み/ランチョンマット/マルチカバー/クッションカバー/読書が好きなおかあさんのブックカバー/音楽用マイバッグ/マイバッグ/きんちゃくポーチ/エプロン/(頭おおい)

注 a) 順序は初出ページ順である。同一ページの場合は①より上部に位置するもの、②より左に位置するものの順で優先した。

注 b) 題材名は原則として原文ママである。ただし名称が記されていないものは前後に発行された教科書などから筆者が推定し、括弧書きで記した(例: 2002 年開隆堂版の「ネームプレート」は題材名が明記されていないため、図から判断した)。

表5：東京書籍発行の教科書における種類別製作実習題材一覧（筆者作成）

期		I				II			III				IV			V		VI		VII
題材の種類・題材／使用開始年度		61	62	65	68	71	74	77	80	83	86	89	92	96	00	02	05	11	15	20
袋もの	そろばんぶくろ	⑤																		
	さいほうばこのふくろ		⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤										
	体育着のふくろ							⑤												
	手さげふくろ								⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	○				
	ひもでしめるふくろ										⑤	⑤								
	2本のひもでしめるふくろ												⑤							
	おべんとうつつみ												⑤	⑤				○		
	ナップザック														⑤	⑤	○	○	○	○
	口あきのないふくろ													⑤						
	花びら型のふくろ															○				
	ミニトートバッグ																○			○
	きんちゃく																	○	○	
	お弁当バッグ																	○		
	ポーチ																	○		
	シューズ入れ																	○		
	リュックザック																	○		
	あずまぶくろ																		○	
	トートバッグ																		○	○
	ハンダナを使ったきんちゃくぶくろ																		○	○
エブロン	まえかけ	⑥		⑥																
	エブロン							⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥		○	○	○	○
	カフェエブロン																	○	○	
ふきん	台ふき	⑤		⑤																
	ぞうきん	⑤							⑤	⑤										○
	ぬいとりをしたふきん										⑤	⑤								
	タオルを使ったぞうきん																			○
かべかけ	整理ぶくろ	⑤		⑤		⑤														
	かべかけ	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥												○		
	のれん	⑥																		
	かべポケット								⑥	⑥	⑥									
	ファミリーポケット											⑥	⑥	⑥						
	手紙入れ															○				
	ウォールポケット																	○	○	○
	かべかさり																	○		
カバー類	まくらカバー	⑥							⑥	⑥	⑥	⑥	⑥							○
	つつ形のまくらカバー		⑥	⑥	⑥	⑥	⑥						⑥	⑥	⑥					
	洋服カバー				⑥	⑥			⑥	⑥										
	ブックカバー					⑥			⑥	⑥	⑥									
	クッション										⑥									
	キャンディー型クッションカバー												⑥	⑥	⑥					
	ふくろ型まくらカバー													⑥	⑥					
	クッションカバー															○	○	○	○	○
	ポットカバー																○			
	ペットボトルカバー																○			
小物類	ティッシュボックスカバー																	○		
	ブレッドカバー																	○		
	花びんしき	⑥																		
	テーブルセンター		⑥		⑥	⑥														
	ティッシュペーパー入れ								⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	○	○			
	小物入れ								⑤	⑤	⑤	⑤						○	○	
	頭おおい								⑤	⑤	⑤									
	ミトン								⑤	⑤	⑤	⑤					○			
	めがねケース								⑥	⑥	⑥							○		
	名前入りナップキン								⑥	⑥										
	小ぜに入れ										⑤	⑤		⑤	⑤					
	ワッペン										⑤	⑤	⑤	⑤	⑤		○			
	カード入れ												⑤	⑤	⑤					
	バスマット													⑤	⑤					
	なべしき													⑤						
	マスコット														⑤				○	
	コースター														⑤			○		
	スプーンホルダー																○			
	ペンケース																○			
	アイデアお手玉																○			
	オリジナルマグネット																	○		
	マイネームプレート																	○		
	ランチョンマット																	○	○	○
	ネックウォーマー																	○		
	ぼうし																	○		
	つながるボックス																		○	
	マスク																			○
	かいり入れ																			○
	マイ・ミニバッグ																			○
その他	ギャザースカート	⑥																		

注 a) 題材名は原則として初出教科書における表記に拠った。

注 b) 表中の「⑤」は第5学年用に、「⑥」は第6学年用に、そして「○」は共通教科書にそれぞれ掲載があることを示す。

表6：開隆堂出版発行の教科書における種類別制作実習題材一覧（筆者作成）

題材の種類・題材 \ 使用開始年度		I				II			III				IV			V		VI		VII	
		61	62	65	68	71	74	77	80	83	86	89	92	96	00	02	05	11	15	20	
袋もの	ふくろ	⑤																			
	そろばん入れ		⑤																		
	さいほうぼこ入れ			⑤	⑤	⑤	⑤	⑤													
	手さげぶくろ			⑤	⑤	⑤	⑤	⑤					⑤	⑤	⑤		○				
	口をひもでしめるふくろ								⑤	⑤	⑤	⑤									
	ナップザック												⑤	⑤	⑤	○	○		○		
	外側にひも通しがついているふくろ													⑤							
	ショルダーバッグ															○					
	底面のあるふくろ															○		○			
	弁当つつみ															○			○	○	
	マルチバッグ															○			○	○	
	ハンカチでつくるふくろ																	○	○	○	
	マイバッグ																	○	○	○	
	ななめナップザック																	○	○	○	
	ふろしきでつくったふくろ																	○			
きんちゃくボーチ																			○		
エプロン	前かけ	⑥	⑥	⑥	⑥																
	エプロン								⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	○	○	○	○	○	
	むねあてつきエプロン														⑥						
	カフェエプロン																	○	○		
ふきん	台ふき	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤		⑤	⑤											
	ぞうきん		⑤																○		
	花ふきん														⑤	○			○		
かべかけ	整理ぶくろ	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤													
	のれん		⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥													
	かべかけ			⑥	⑥	⑥	⑥	⑥													
	ポケットつきのかべかけ								⑥	⑥											
	メモ入れ										⑥	⑥									
	タオルかけ												⑥								
	ウォールポケット																○	○			
カバー類	まくらカバー	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥					○	○		
	うでカバー	⑥	⑥											⑥							
	洋服カバー			⑥	⑥	⑥	⑥	⑥													
	いすカバー					⑥	⑥														
	小座ぶとんカバー									⑥	⑥										
	ティッシュボックスカバー												⑥	⑥	⑥	○	○				
	クッションカバー													⑥	⑥					○	
	バンダナで作ったティッシュボックスカバー																○				
	ねこ型ティッシュボックスカバー																○				
	キャンディー形クッション																	○			
ブックカバー																	○	○	○		
マルチカバー																	○	○	○		
小物類	テーブルセンター				⑥	⑥	⑥	⑥													
	花びんしき					⑤	⑤	⑤													
	はさみサック								⑤	⑤											
	ティッシュペーパー入れ								⑤	⑤	⑤	⑤		⑤	⑤	○	○	○		○	
	なべつかみ								⑤	⑤											
	くつみがきミトン								⑤	⑤											
	小さなしき物								⑥	⑥											
	ベンケース										⑤							○	○		
	頭おおい									⑤	⑤								○	○	
	ベルトポケット									⑤											
	なべつかみ									⑤	⑤					○					
	小ぜに入れ										⑤			⑤		○					
	コースター											⑤		⑤							
	マスコット												⑤		⑤	○		○			
	さいころ													⑤							
	小物入れ													⑥			○	○			
	ネームプレート																○	○	○		
	ランチョンマット																○	○	○	○	
	クッション																○	○	○	○	
	足ふきマット																	○			
	ファスナーつき小物入れ																	○			
	ふたつき小物入れ																	○			
	フェルトの小物入れ																		○		
	数字のマスコット																		○		
	針さし																		○	○	
	身じたくずきん																		○		
	フォトフレーム																		○		
	フェルトでつくるカード入れ																			○	○
	はさみケース																			○	
	つながるアイスクリームマスコット																			○	
ペットボトルキャップの針さし																			○	○	
布でつくるティッシュペーパー入れ																			○		
ぬい取りのネームプレート																				○	
その他	かんたんな上着	⑥																			
	ギャザースカート	⑥	⑥																		
	ひざかけ																		○		

他」に分類し、6種類の題材分類には含めずを示した。

発行者別にみると、表5に示した東京書籍の教科書における題材数は1977年告示の学習指導要領（Ⅲ期）のもとで発行された1980年版から大幅な増加がみられ、その後漸減するものの2011年版において全期間を通じて最多の19となる。学年別の教科書であったⅠ期からⅣ期においては、「袋もの」「ふきん」は第5学年用に掲載され、またⅡ期までは第6学年用のみに掲載されていた「小物類」は、Ⅲ期以降は第5学年用を中心に掲載されるようになった。「エプロン」や「カバー類」は一貫して第6学年用の教科書に掲載されている。後述するように、学習指導要領における題材指定が反映されていることが再確認できる。他方、開隆堂出版の教科書に掲載された題材（表6）の変遷を概観すると、題材数に関してはⅠ期からⅣ期までは大きな変化はみられないが、Ⅴ期以降に急増し、2015年版で24題材が掲載された。しかし、2020年版では約半数に減じた。種類ごとの傾向としては、「袋もの」や「ふきん」、「エプロン」、「カバー類」は東京書籍と同様に学年による明確な区分がなされているが、「小物類」については異なり、第5・6学年が混在している。

東京書籍および開隆堂出版に共通する特徴として、Ⅴ期以降の第5・6学年共通教科書における題材において、Ⅰ期からⅣ期までの教科書で主に用いられた単純な名称ではなく、材料や用途、使用者等を付加した題材名で掲載されるようになったことが指摘できる。この傾向はとりわけ「袋もの」や「カバー類」、「小物類」に関してみられる。ただし例外も存在し、「エプロン」や「ティッシュペーパー入れ」といった題材名のように、時期を問わず題材名に変化がない場合もみられる。

学年ごとの題材の配置の区別は、学習指導要領における指定に由来するところが大きいと考えることができる。すなわち「袋もの」は1958年告示版から1989年告示版まで第5学年で製作することが指定されており、そのため2社とも第5学年の教科書に掲載しており、1977年告示版と1989年告示版で第6学年の題材として指定された「エプロン」も第6学年用教科書で扱われている。「カバー類」は1958年の改訂から1989年の改訂に至るまで第6学年で製作する題材として指定されており、この間掲載されたすべての題材が第6学年用教科書に配置されている。「小物類」も1977年告示版と1998年告示版で第5学年の題材に指定され、それが教科書においても忠実に反映されている。一度指定された題材は、学習指導要領における言及は削除されても教科書には掲載され続ける傾向があることも明らかであり、例えば「エプロン」は2002年以降も2002年版を例外として現在（Ⅶ期）まで掲載が続いており、「台ふき」も指定されていたのは1958年告示版であるが、Ⅲ期の1983年開隆堂版まで継続している。他方、学習指導要領に直接的に言及のない「かべかけ」類であるが大半は第6学年用教科書に掲載されており、学習指導要領における題材指定の有無に関わらず、学年ごとに掲載題材が固定化される傾向があることも指摘できる。

## （2）掲載題材において用いられる技術

教科書に掲載された題材の作り方は文章や図によって示され、児童はその指示に従って製作を進めていくことが想定されている。例えば、製作において「なみぬい」を用いて縫うように記載され



表7：題材で用いられる技術の表記方法（筆者作成）

技術の表記方法	記号
1. 文章・図で明確に指示されている	●
2. 文章・図でいずれかを選択するように指示されている	■
3. 文章・図で指示されているが、用いることなく製作することが可能である	□
4. 文章・図で指示されていないが、(文脈等から) 必ず用いると推測できる	▲
5. 文章・図で指示されていないが、用いる可能性があると推測できる	△

た題材もあれば、「ぬう」という用語のみで、どのような縫い方（なみ縫い・本返し縫い・半返し縫い等）を用いるかを明示していない題材もあった。題材を総覧し、用いられる技術の表記方法を確認したところ、表7に示すように5段階に分類することができた。第一に「文章・図で明確に指示されている（●）」、第二に「文章・図でいずれかを選択するように指示されている（■）」、そして第三に「文章・図で指示されているが、用いることなく製作することが可能である（□）」があり、いずれも明確な指示がなされているものである。また第四に「文章・図で指示されていないが（文脈等から）必ず用いると推測できる（▲）」、第五に「文章・図で指示されていないが、用いる可能性があると推測できる（△）」があり、後二者は読者の判断に委ねる表記方法であるといえる。

そのうえで、本研究では「台ふき」「手さげぶくろ」「ティッシュペーパー入れ」の3種を特徴的な題材として分析の対象とした。「台ふき」は、東京書籍・開隆堂出版ともに1961年版において第5学年の最初に学習する題材として掲載されていた。しかし、現在（Ⅶ期）では教科書から姿を消しており、時代の変化に伴い削除された題材の代表例として選択した。また、「手さげぶくろ」は「手さげ型（バッグ）」や「トートバッグ」「マイバッグ」等と名称を変えながら長期にわたり教科書に掲載され続けており、定番という定番題材がないとされる製作実習題材の中でも、Ⅰ期からⅦ期まで比較的長期にわたり親しまれてきた題材である。「ティッシュペーパー入れ」は、Ⅲ期から題材として掲載されはじめた後発型であるが、現在（Ⅶ期）に至るまで掲載され続けており、「小物類」を代表する題材として選択した。

#### ア) 台ふき

東京書籍の教科書に掲載された「台ふき」に用いられた技術を分類した結果が表8、同様に開隆堂出版の結果が表9である。東京書籍については、Ⅰ期の間のみ掲載された「台ふき」は使いやすい大きさを決めてから布を裁ち、待ち針を用いたり、へらを用いて印をつけたりしてからなみ縫いで縫って製作していた。各教科書とも作り方および用いられる技術に大きな違いはみられなかった。他方、開隆堂出版においては、Ⅰ期からⅢ期まで「台ふき」が掲載されていた。Ⅰ期においては第5学年向けの教科書で最初に扱う題材、すなわち手縫いの基礎基本を学んだ後に初めて学ぶ題材

表8：題材「台ふき」〔東京書籍〕の製作で用いられる技術（筆者作成）

[illegible]

表9：題材「台ふき」〔開隆堂出版〕の製作で用いられる技術（筆者作成）

[illegible]

として「台ふき」が掲載されていた。これは東京書籍も同様の扱いである。Ⅱ期以降,「台ふき」は学習指導要領で指定から除外されたが,開隆堂出版においては,Ⅱ期の間は「台ふき」を手縫いの題材としてではなく,ミシン縫いの基礎・基本を学んだ後に製作する題材として扱っていた。そしてⅢ期になると,家庭の仕事に役立つ物の題材として扱われ,Ⅰ期やⅡ期までのように製作に関わる技術の習得を目的とした題材設定ではなくなった。

### イ) 手さげぶくろ

次の題材は,「手さげぶくろ」である。東京書籍については「手さげぶくろ」に加え名称が異なるが同一の形状といえる「ミニトートバッグ」「お弁当バッグ」「トートバッグ」も広義の「手さげぶくろ」ととらえ,これらの製作に用いられる技術を示したのが表 10 である。また開隆堂出版については「手さげぶくろ」とⅤ期の「ショルダーバッグ」,そしてⅥ期以降の「マイバッグ」を併せて「手さげぶくろ」とし,用いられる技術の表記の状況を表 11 に整理した。

「手さげぶくろ」に用いられる技術について,基礎縫製技術Ⅰにおける手縫い・ミシン縫い技術群に着目すると,Ⅳ期以前は主に手縫いの技術を用いる題材であったものが,Ⅴ期よりミシン縫いも選択可能となり,Ⅵ期以降は手縫いとミシン縫いのどちらを用いるかを考えさせ,縫う箇所によって適切な縫い方を選択させる構成へと変化を遂げている。そのほかの技術については,二つ折りやしつけのように,近年になるにつれ丁寧かつ明確に表記するようになった技術も多いが,きせやかがり縫い,平アイロン,仕上げ,玉結び,そして玉留め等の技術については,そのような傾向を見出すことは困難であった。きせについては,Ⅲ期以前は脇縫いのさいにきせをかけることが明示されていた(例えば1983年東書版)ものが,Ⅳ期以降の大半の教科書でそうでなくなり,また紐のかがり縫いもⅢ期の一部(1986・1989年開隆堂版など)でみられるがⅣ期以降には記載されていない。アイロンかけに目を向けても,用布の裁断前の平アイロンも仕上げも明確にアイロンをかけるよう指示されている場合(例えば1996年東書版)とそうでない場合(例えば1992年東書版)があり,一定していない。玉結びと玉留めは,手縫いについての言及がある場合でも,または明示されずとも手縫い糸が材料に含まれるなど手縫いをする可能性がある場合でも,多くの教科書では明記されておらず(2020年度開隆堂版ほか多数),「文章・図で指示されていないが,(文脈等から)必ず用いると推測できる(▲)」と判断せざるを得なかった。

先行研究からも確認できるように「手さげぶくろ」は頻出といえる製作実習題材であり,作り方の全体的なフローもどの時代のどの発行者の教科書にあっても大差ないが,手縫いとミシン縫いのどちらを用いるのか,あるいはその前後にどのような非縫製技術を用いるのかという点に着目すると教科書の改訂ごとに変化があり,かつ,相対的に大きな変化がある場合でも必ずしもそれが学習指導要領の改訂時期と合致するとは限らない点を指摘することができる。このような変化は,無意図的なものもあれば意図的な場合もあると推察されるが,手縫いとミシン縫いなどの縫い方を明記せずに並列的に示すⅤ期以降の教科書からは,どのような技術が適切なのか,またなぜその技術を

表 10：題材「手さげぶくろ」〔東京書籍〕の製作で用いられる技術（筆者作成）

[illegible]

表 11：題材「手さげぶくろ」〔開隆堂出版〕の製作で用いられる技術（筆者作成）

[illegible]

用いるのかを児童に考察させたいという執筆者の意図があると解釈できる。

#### ウ) ティッシュペーパー入れ

小物類の代表例である「ティッシュペーパー入れ」は、Ⅲ期から「ちり紙入れ」という題材名で東京書籍の教科書に掲載されはじめ、1986年版から2002年版の教科書では「ティッシュペーパー入れ」として長きにわたり掲載された。開隆堂の教科書ではⅢ期途中からの掲載であり、2015年版から「布でつくるティッシュペーパー入れ」、2020年版では「ポケットティッシュカバー」として掲載されている。「ティッシュペーパー入れ」は、掲載開始当初は布を用いた製作の入門的な性格を帯びており、第5学年の序盤で学習する玉結びや玉留め、なみ縫いといった基礎的な技術を確認するための題材という位置づけであった。Ⅴ期以降になると、より用いる技術が少ない「マスコット」などに「第5学年の児童が最初に触れる製作実習題材」という位置づけは取って代わられたが、基礎的な技術を確認するための題材であることに変化はないように見受けられる。

東京書籍・開隆堂出版2社の「ティッシュペーパー入れ」の技術を分類したものが表12・13である。全体を俯瞰すると、「ティッシュペーパー入れ」の技術はそのほかの題材に比べて「文章や図で指示されていないが、(文脈等から)必ず用いると推測できる技術(▲)」が多く、「文章・図で明確に指示されている技術(●)」が少ないことが確認できる。東京書籍についてみると、Ⅲ期における「ちり紙入れ」は、非縫製技術については寸法を測り大きさを決めることと中表で用布を折ること、そして基礎縫製技術については縫うことに関する指示のみであった。その後1986年版から「ティッシュペーパー入れ」という題材名に変わり、印つけやなみ縫いの技術を用いることが示唆されるようになった。そして、Ⅳ期になるとはさみを使って布を裁つ技術も記載された。開隆堂出版もまた「ティッシュペーパー入れ」を長期にわたり掲載していたことは上述の通りである。Ⅲ期において2冊目となる1983年版より小物類の題材として掲載された「ティッシュペーパー入れ」は、東京書籍と同様に当初は寸法と縫うことに関する指示が中心であったが、1986年版からえんぴつを用いた印つけや半返し縫いが指定され、1989年版になると二つ折りとボタン付けの指示が記載された。Ⅳ期からⅤ期にかけては、はさみと待ち針の使用が明記され「ティッシュペーパー入れ」の製作に用いる技術のうち「文章・図で明確に指示されている技術(●)」の数が増加した。Ⅵ期には型紙に代わる厚紙が大きさを決めるさいに用いられたが、Ⅶ期には用いられなくなった。また、2015年版の教科書からは基礎縫製技術における手縫いに関して、「なみぬいか返しぬいでぬう」と記載されるようになり、用いる技術がより明確に指示されるようになった。この傾向は2020年版の教科書にも表れており、印つけの技術において、えんぴつの使い方が参照できるようにリンクするページが記載されるようになった。先述の「手さげぶくろ」がどのような技術を用いるのかをあえて固定せず、児童に選択することを促していたことは異なり、基礎的な技術を確認することが目的のひとつである「ティッシュペーパー入れ」では細かな技術であってもそれを明確に示す傾向がとくにⅥ期以降にうかがえる。



表 12：題材「ティッシュペーパー入れ」〔東京書籍〕の製作で用いられる技術（筆者作成）

期				I				II			III				IV			V		VI		VII
技術分類 \ 使用開始年度				61	62	65	68	71	74	77	80 ⑤	83 ⑤	86 ⑤	89 ⑤	92 ⑤	96 ⑤	00 ⑤	02 ○	05	11	15	20
分類	副分類	技術群	技術																			
非縫製技術	I	採寸	採寸								●	●	●	●	●	●	●	●				
		製図	製図								-	-	-	-	-	-	-	-				
	II	アイロンかけ	平アイロン								-	-	-	-	-	-	-	-				
			割り押さえ								-	-	-	-	-	-	-	-				
			仕上げ								-	-	-	-	-	-	-	-				
		裁断	はさみ								-	-	-	-	●	●	●	●				
			へら								-	-	▲	▲	▲	▲	▲	▲				
		印つけ	ルレット								-	-	-	-	-	-	-	-				
			チャコペーパー								-	-	-	-	-	-	-	-				
			えんぴつ								-	-	▲	▲	▲	▲	▲	▲				
		待針を打つ	待針								-	-	-	-	-	-	-	●				
			二つ折り								▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲				
	布扱い	三つ折り	きせ								-	-	-	-	-	-	-	-				
			紐								-	-	-	-	-	-	-	-				
基礎縫製技術	I	手縫い	なみ縫い								▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲				
			本返し縫い								▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲				
			半返し縫い								▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲				
			かがり縫い								-	-	-	-	-	-	-	-				
			まつり縫い								-	-	-	-	-	-	-	-				
		ミシン縫い	本縫い								-	-	-	-	-	-	-	-				
			玉結び								▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲				
		留め	玉留め								▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲				
			玉留め								▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲				
	II	しつけ	しつけ								-	-	-	-	-	-	-	-				
		接ぎ	割り接ぎ								-	-	-	-	-	-	-	-				
応用	I	ブリーツ	片ひだ								-	-	-	-	-	-	-	-				
		布寄せ	ギャザー								-	-	-	-	-	-	-	-				
		留め具	スナップ								-	-	-	-	-	-	-	-				
			ボタン								-	-	-	-	-	-	-	-				

表 13：題材「ティッシュペーパー入れ」〔開隆堂出版〕の製作で用いられる技術（筆者作成）

期				I				II			III				IV			V		VI		VII
技術分類 \ 使用開始年度				61	62	65	68	71	74	77	80 ⑤	83 ⑤	86 ⑤	89 ⑤	92 ⑤	96 ⑤	00 ⑤	02 ○	05 ○	11 ○	15 ○	20 ○
分類	副分類	技術群	技術																			
非縫製技術	I	採寸	採寸								●	●	●			●	●	●	●	●	●	●
		製図	製図								-	-	-			-	-	-	-	●	●	-
	II	アイロンかけ	平アイロン								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
			割り押さえ								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
			仕上げ								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
		裁断	はさみ								-	-	-			●	●	●	●	●	●	●
			へら								-	-	-			▲	-	-	-	-	-	-
		印つけ	ルレット								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
			チャコペーパー								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
			えんぴつ								-	●	●			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		待針を打つ	待針								-	-	-			●	●	●	●	●	●	●
			二つ折り								▲	▲	●			●	●	●	●	●	●	●
	布扱い	三つ折り	きせ								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
			紐								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
基礎縫製技術	I	手縫い	なみ縫い								▲	▲	▲			▲	▲	▲	▲	▲	■	■
			本返し縫い								▲	▲	▲			▲	▲	▲	▲	▲	■	■
			半返し縫い								▲	●	●			▲	▲	▲	▲	▲	■	■
			かがり縫い								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
			まつり縫い								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
		ミシン縫い	本縫い								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
			玉結び								▲	▲	▲			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		留め	玉留め								▲	▲	▲			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
			玉留め								▲	▲	▲			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	II	しつけ	しつけ								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
		接ぎ	割り接ぎ								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
応用	I	ブリーツ	片ひだ								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
		布寄せ	ギャザー								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
		留め具	スナップ								-	-	-			-	-	-	-	-	-	-
			ボタン								-	-	●			-	-	-	-	-	-	-

#### 4. まとめと今後の課題

本稿では、東京書籍および開隆堂出版が発行した小学校家庭科の検定教科書に掲載された題材において用いられる技術を通時的に分析し、製作題材の作り方やその表記方法の変化を検討した。その結果、以下の諸点が明らかになった。

第一に、製作するうえで適用する技術的アプローチが変化する題材があるということである。「ティッシュペーパー入れ」のように長期にわたり教科書に掲載されており、かつ技術が変わらない製作実習題材もあれば、手縫いを想定して掲載されていたが徐々にミシン縫いを用いることも想定されるようになった「手さげぶくろ」のような題材もあることが明らかとなった。加えて、開隆堂出版に掲載された「台ふき」のように、学習指導要領での題材指定から削除されたのち、ミシン縫いの学習後に製作する題材として、その位置づけを変えて掲載されるなど、題材の配置にも様々な試みがあることを確認することができた。

第二に、製作過程において縫製技術を用いるさいに児童に技術選択の余地を与える傾向が、とくに近年の教科書にみられることである。本稿で検討した「手さげぶくろ」の技術分類をみると、「文章・図で明確に指示されている技術 (●)」だけではなく、「文章・図でいずれかを選択するように指示されている技術 (■)」や「文章・図で指示されていたが、(文脈等から) 必ず用いると推測できる技術 (▲)」も多く表記されていた。近年の小学校家庭科の教科書には、児童に視覚的に理解しやすいような工夫が随所にみられ、さらに ICT 機器を活用した縫製技術を解説した動画が視聴できるように QR コードを掲載するといった新たな取り組みも試みられている。「ティッシュペーパー入れ」のような製作学習の序盤において実習することが想定される題材については、教科書における技術の表記方法の変遷からもみてとれるように、増淵 (2012) が指摘するような「やり方主義」に陥る危険をはらむととらえることもできる。しかし、「手さげぶくろ」の作り方では、ひもをつける場面でなみ縫いや返し縫いのいずれを用いるのか選択する余地を残すなどして、児童にどのような技術が適切であるのか考えさせる機会を設定するよう変更が施されており、「やり方主義」批判はすべての題材に一律にあてはまるとはいえないのではないだろうか。

今後のさらなる検討事項としては、教科書の機能のうち「教授・学習内容」の伝達という側面だけでなく、「教授・学習方法」の伝達という側面 (松永, 2010) にも着目した家庭科教科書研究が求められる。具体的には、製作実習題材の技術自体に着目した分析だけではなく、文章での記載方法や図の表現や配置などにも着目することが挙げられ、教師・児童にとってより望ましい教科書における掲載方法についての知見を蓄積する必要があるといえる。

昨今、文部科学省が「個別最適な学び」の実現を推進しており、小学校家庭科の布を用いた製作学習において充実させる手立てを考察することは喫緊の課題といえる。本稿では小学校家庭科における掲載された題材について検討したが、児童が技術を選択するための支援についても議論を進める必要性が示唆された。スウェーデンには、スロイドという木や金属、布など多様な材料を用いて作品を作るものづくり教科があり、技術の習得だけを目的にした学びではなく、児童・生徒のアイ

ディアを大切にし、それらを作品という形にする過程で自ら試行錯誤しながら創造性を育む学びがおこなわれている（長・河村, 2017）。スウェーデンのスロイドから示唆を得て、指定された題材という枠のなかで技術の種類を選択することにとどまらず、製作実習題材そのものを児童自らが選択する、個別最適な布を用いた製作学習のカリキュラムを開発することが今後の課題である。

## 注

注1) 原則として高木（1990）による表記に拠るが、送り仮名等一部修正を施している。また、「分類」「副分類」「技術群」「技術」というカテゴリは筆名らが命名した。

**付記** 本研究の一部は、科学研究費補助金（研究活動スタート支援）「スウェーデンのスロイド教育を応用した個別最適な被服製作学習の研究」（課題番号：22K20229，研究代表者：長拓実）の助成を受けておこなわれたものである。

## 引用・参考文献

- 長拓実・河村美穂. (2017). スウェーデン人大学生調査からみるスロイド教育の学び. 埼玉大学紀要 教育学部, 66 (1), 35-48.
- 服部由美子・前川結花. (2020). 被服製作に関する指導内容の変遷と大学生の意識. 福井大学教育・人文社会系部門紀要, (4), 275-287.
- 林千穂. (1981). 男女共学家庭科における被服領域について：被服製作の扱いを中心として. 長野県短期大学紀要, (36), 53-59.
- 堀内かおる・武井洋子・田部井恵美子. (1988). 被服製作及び手芸の教育的意義：学習要求からの考察. 東京学芸大学紀要 第6部門 産業技術・家政, 40, 127-140.
- 池崎喜美恵. (2000). 文部省検定による家庭科教科書. 日本家庭科教育学会（編）, 家庭科教育 50年：新たな軌跡に向けて（pp. 68-70）, 東京：建帛社.
- 今津屋直子. (2010). 教員養成課程における家庭科教育に関する研究（2）：小学校家庭科新教科書の検討. 教育学論究, (2), 15-25.
- 岩田利美・吉田紘子. (1999). 家庭科における衣生活の管理に関わる教育内容の検討. 茨城大学教育学部紀要（教育科学）, (48), 165-184.
- 川合みちる・谷口明子・平嶋憲子・中嶋たや・菱田道代・河崎智恵・鈴木洋子. (2008). 小・中・高等学校の系統性に配慮した被服製作題材の検討. 教育実践総合センター研究紀要, (17), 191-199.
- 増渕哲子. (2012). 小学校家庭科新教科書の検討：実習教材とPDCAサイクルの記述を中心に. 北海道教育大学紀要 教育科学編, 62 (2), 291-305.
- 松永彩. (2010). 教授・学習における教科書の役割と伝達性：途上国における教科書開発に向けて.

- 広島大学教育開発国際協力研究センター国際教育協力論集, 13 (1), 15-26.
- 文部科学省初等中等教育局教育課程課. (2021). 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料, [https://www.mext.go.jp/content/210330-mxt\\_kyoiku01-000013731\\_09.pdf](https://www.mext.go.jp/content/210330-mxt_kyoiku01-000013731_09.pdf) (2022年11月16日最終アクセス).
- 猿田佳那子. (2014). 衣生活関連領域における実験・実習教材の変遷と現状: 学習指導要領と家庭科教科書を参考として. 同志社女子大学生生活科学, 47, 46-51.
- 杉村桃子・綿引伴子・上野留美. (2005). 小学校家庭科衣生活分野における総合的な学びをめざす題材開発 (第1報): 教科書の記述内容と実施状況. 愛媛大学教育学部紀要, 52 (1), 217-234.
- 高木直. (1990). 被服構成技術に関する研究 (第2報): 被服構成技術の分類と製作教材の分析. 山形大学紀要 教育科学, 10 (1), 37-53.
- 高木直. (2001). 家庭科における被服製作実習の課題. 年報・家庭科教育研究, 27, 29-36.
- 高木直. (2004). 被服製作実習の学習意義と課題. 大学家庭科教育研究会 (編), 市民が育つ家庭科: 子どもが変わる/地域が変わる/学校が変わる (pp. 125-135), 東京: ドメス出版.
- 高木幸子. (2013). 小学校家庭科教科書の内容構成と実習題材の変遷. 新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編, 5 (2), 181-188.
- 田中陽子・大井彩子. (2014). 家庭科教科書衣生活内容に見る小・中・高等学校の関連. 神戸女子大学家政学部紀要, 47, 40-50.
- Pingel, F. (2010). UNESCO Guidebook on Textbook Research and Textbook Revision, second edition. Paris: United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization/Braunschweig: Georg Eckert Institute for International Textbook Research.
- 渡瀬典子. (2013). 家庭科教育における「被服製作」はどのように扱われてきたのか. 年報・家庭科教育研究, 34, 1-12.
- 山本紀久子・岩瀬真知子. (2005). 小学校家庭科教科書の衣生活関連用具の記載状況. 茨城大学教育実践研究, (24), 163-177.